

法と心理学会第18回大会
公開シンポジウム

治療的司法・正義の 実践と理論

～地域の課題としての犯罪者の
立ち直りとその支援～
主催：法と心理学会

共催：成城大学治療的司法研究センター

2017年10月15日（日）
午後2時30分～5時30分
（受付開始午後2時）

参加費無料

成城大学3号館003教室

いま世界では、罪を犯した人の問題を解決し、立ち直りを支援するケアの理念に裏付けられた「治療的司法」という新たな考え方が広がっています。この度、成城大学治療的司法研究センターでは、法と心理学会と共催で、日本における治療的司法のあり方について検討する機会を持つことになりました。処罰ではなく、地域社会（社会の安全）と当事者の問題解決に資する法の展開という視点から、このテーマを深めてみたいと思います。

コーディネイター：中村正（立命館大学教授）

登壇者：山田恵太（弁護士）、菅原直美（弁護士・センター客員研究員）、指宿信（成城大学教授・センター長）

問い合わせ：

〒157-8511

東京都世田谷区成城6-1-20

成城大学研究機構室内 治療的司法研究センター

E-mail rctj@seijo.ac.jp



成城大学
治療的司法
研究センター

後援：JST社会技術研究開発センター（RISTEX）「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域採択プロジェクト「多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワーク（ATA-net）の構築」研究代表者・石塚伸一（龍谷大学）